

日韓関係のあり方に関する調査研究

(報告書の概要)

日韓両国間には安倍新政権の誕生、北朝鮮による核実験の実施、日韓F T A交渉の中断などの最近の情勢変化を背景に、新しい日韓関係を再検討すべきとの声が高まっている。そこで、本調査研究は、日韓両国の政界、産業界、学界、報道界等分野の有識者の参加を得て、自由な討議を行うための「日韓ラウンドテーブル」の開催を通じて、今後の両国の友好な関係構築に向けてのあり方を提起することを目的としている。

今回のラウンドテーブルでは、3つのセッション（Ⅰ．安倍新政権と新日韓関係、Ⅱ．北朝鮮の核実験と北東アジア地域の安保の模索、Ⅲ．韓米F T A交渉と中断された日韓F T A交渉）を設けた。

第Ⅰセッションでは、2006年9月に発足した安倍政権の性格や外交姿勢に焦点が当てられ、対アジア・韓国外交、今後の日韓関係が主要な論点となった。同首相が就任直後に韓国を訪問したことなどから、韓国側から好感と期待を寄せる意見が出された一方、日韓関係にマイナスになるような事態を招くことがないようにとの発言があった。

北朝鮮を巡る問題は2007年2月に再開された六者協議で、朝鮮半島の非核化に向けて各国がとるべき措置を決めた合意文書が採択されるなど急展開をみせた。第Ⅱセッションでは、2006年12月11日時点の情勢を踏まえたものであるが、北朝鮮の核実験の意図、核放棄へ向けたプロセス、六者協議、太陽政策および拉致問題が主な論点となった。

第Ⅲセッションでは、日韓F T A交渉膠着の要因、現状打開の方策等のほか、F T Aを敷衍した形でのアジア経済共同体の枠組み等中長期的な問題についても意見が交わされた。セッション全体を通じて、日韓F T A締結が喫緊の課題であること、交渉再開には首脳会談など両国トップの政治的決断が必要との共通認識が得られたが、そうした認識を実現に至らせる方途については多様な議論があった。

(報告書の主要構成)

1. 開催概要
2. 開催要領
3. 問題提起および討議内容の要約
4. 出席者リスト